

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：近畿地方整備局都市整備課

担当課長名：新階 寛恭

事業名	弓場線	事業区分	街路	事業主体	神戸市
起終点	起点：神戸市東灘区御影町御影 終点：神戸市東灘区住吉山手2丁目			延長	0.3 km
事業概要					
東灘山麓部の道路網を構成し、山麓部の住宅地と阪急御影駅等とを連絡する幹線道路であり、バス道の交通混雑の解消、安全で快適な道路空間を確保するため事業を進めている。 幅員：27m（往復4車線、歩道幅員5m）					
H6年度事業化		S21年度都市計画決定（H13年度変更）		H7年度用地着手	
				H10年度工事着手	
全体事業費		109億		事業進捗率	
				50%	
計画交通量		7,001台/日		供用済延長	
				0.02 km	
費用便益分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年	
	1.6	110億円	177億円	平成15年	
		事業費：110億円	走行時間短縮便益：173億円		
		維持管理費：0.1億円	走行費用減少便益：4億円		
			交通事故減少便益：0.2億円		
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> 都市圏の交通円滑化の推進（公共交通機関（バス路線）の利用の促進） 安全な生活環境の確保（大型消防はしご車の通行が可能） 					
関係する地方公共団体等の意見					
防災性の確保（消防活動等）やバスの円滑な運行を確保するため、早期整備が求められている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
平成10年に南側駅前広場等が順次完成し、周辺における道路ネットワークの整備が進んでいる。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地買収率は、既に85%に達している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
阪急神戸線との立体交差部は平成13年に完成済み。平成15年度からは擁壁等の道路工事に着手しており、平成17年度末には立体交差部からバス道までの間の供用を目指している。					
施設の構造や工法の変更等			特になし		
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。